グローバル・カフェ「留学報告イベント（オーストラリア編）」を開催しました

2023 年 6 月 15 日（木）18 時から、グローバル・カフェでは「留学報告イベント（オーストラリア編）」を開催しました。西オーストラリア大学（The University of Western Australia (以下 UWA)付属の語学学校である Center for English Language Teaching (以下 CELT)で 5 週間の語学研修を終えた西 亮祐さん、東 竜平さん、坪田 晴香さん、日下 有騎さんより CELT での授業の様子や、現地での生活についてなどを紹介しました。当日は日本人学生１３人、留学生１人、教員 4 名の計１８名が参加しました。

University of Western Australia
・西オーストラリア州で最も古い大学（1911 年創立）で、Group of Eight と呼ばれるオーストラリア名門 8 大学の 1 つ。
・2002 年 3 月に本学農学部と UWA 自然・農学部が学術交流協定を締結し研究交流を行ってきた。2020 年 10 月、本学インターナショナルオフィスと UWA CELT で学術交流協定を結び、本学学生の英語研修派遣を今後も継続的に実施予定。
・CELT での 5 週間語学研修は 2013 年より全学共通科目・高学年向け教養科目「Study Abroad」として実施。

CELT で Upper intermediate（中上級）のクラスを受講した西さんは、授業は平日午前中（8 時 30 分～12 時 45 分）に行われたこと、先生が出題するトピックについて、お互いの意見を述べるディスカッション形式が中心であったこと、同じクラスには日本人のほかに韓国、中国、チリ、エクアドル出身の学生が参加していたことなどを話されました。放課後にはクラスメートとパース市内へ出かけ、昼食を食べることが多かったそうですが、ペットボトルの水 1 本が日本円でおよそ 400 円、マクドナルドのセットは約 1,500 円であったそうで、物価の高さに驚いたそうです。西さんの将来の夢は中学校の英語教員になることで、今回の研修では、語学の習得だけではなく、CELT の先生たちの授業内での発言、活動、文法の教え方などの技術も学ぶことができたそうです。

同じく Upper intermediate（中上級）クラスに参加した日下さんは、渡豪前から哲学に興味があったこともあり、CELT の授業後に UWA の学部生が主体となって活動している「哲学クラブ（Philosophy Society)」に参加し、現地の学生との交流も深められたとのことです。ネイティブスピーカーの学生たちと、ディスカッション

を行うのは大変でしたが、彼らとの議論を通じて、異なる文化や視点に触れることで視野を広げることができたそうです。今回の研修を終えて、自身が思っているよりスピーキングができたことが自信に繋がった一方で、リスニングには課題が残ったとのことでした。

Intermediate （中級）のクラスに参加した東さんは、今回の語学留学の目的を、語学力向上だけではなく「世界に通用する視野を広げる、課題解決能力の向上」等とし、留学に挑んだと述べられました。授業では、クラスメートのほとんどが日本人であったことに戸惑いはあったが、情報交換や相談をしやすく、心強かったことや、先に CELT に到着していた日本人の学生から、現地の知人を紹介してもらえたことで、より早く授業や生活に馴染むことができたそうです。この留学から得られたものは、以前より英語を話すことに抵抗がなくなったこと、授業だけでは学ぶことができない英語に触れる機会が多くあったことであると述べられました。ホームステイ先では、自身の興味がある国際政治・国際協力分野について、伝えたいことを英語でうまく伝えられず、悔しい思いをされたとのことで、次に海外へ行く機会があるときまでに、これらの分野についての知識を深めるとともに、英語で伝えられるようになることが今後の目標であると意気込みを語ってくれました。

最後に同じく Intermediate（中級）クラスに参加した坪田さんは、この語学研修に参加した理由の一つとして、高校生の時に留学するチャンスがあったにもかかわらず、勇気が出ずに参加しなかったことを後悔していると話し、今回は勇気を持って挑戦することを決めたと冒頭に述べられました。CELT での授業内容について、インタビュー形式を使うなど、全員が発言する機会が多く設けられていたことや、自分自身の話す英語を録音して、クラスメートと一緒に発音チェックする機会があったこと、週に一度、CELT にあるパソコン教室を利用して、簡単なプレゼンテーションを実施したことなどを説明していただきました。また滞在中に、「Opening Day」と呼ばれる、オープンキャンパスのようなイベントがあり、誰でも参加できるルーレットゲームに参加し、歯磨き粉やジュースが当たったことや、毎週金曜日にはキャンパス内で「1 ドルランチ」というイベントが開催されており、1 ドルで

軽食を購入することができたことなど、写真を交えて紹介されました。この研修の成果の一つとして、人前で恐れることなく英語を話せるようになったことを挙げられました。正しく伝わらなくても少しでも多く英語を話すことを心掛けたそうで、CELT のクラス担任の先生であった June 先生からも「成長が目に見えてわかった」という言葉をいただいたそうです。帰国後は、アルバイト先で外国人に英語で接客することにも抵抗を感じなくなり、コミュニケーション力の向上を実感しているそうです。報告の最後には、坪田さんが尊敬する AK English あかねさんの言葉である ”You need to speak to be able to speak!” を参加者に贈ってくれました。

質疑応答の時間では参加者から「５週間の留学は長く感じましたか？」という質問があり、西さん、日下さん、東さんからそれぞれ「やっと慣れてきたところだったので、もう少し滞在したかった」「まだ帰りたくなかった。もう少し研修を延長できないか先生に交渉した」「短く感じた。パース以外の地域にも行ってみたいと思った」と答え、坪田さんからは「授業面でも観光面でも５週間という期間はちょうどよかった」と回答がありました。

次回のイベントは６月２８日（水）の Yu Nishiyama さんによる公開授業＆トークイベント（遠隔形式）です。ゲストスピーカの西山さんに、アメリカから実施していただきます。
公開授業：アメリカ文化におけるジャズ
トークイベント：アメリカで日本人女性作曲家として生きるとは